

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	北海道文教大学
設置者名	学校法人 鶴岡学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
人間科学部	健康栄養学科	夜・通信	14	3	68	85	13	
	看護学科	夜・通信	0	0	15	15	13	
	こども発達学科	夜・通信	5	1	146	152	13	
	地域未来学科	夜・通信	36	11	63	100	13	
国際学部	国際教養学科	夜・通信	8	18	34	60	13	
	国際コミュニケーション学科	夜・通信	6	10	22	38	13	
医療保健科学部	看護学科	夜・通信	12	3	96	111	13	
	リハビリテーション学科 理学療法学専攻	夜・通信	12	30	66	108	13	
	リハビリテーション学科 作業療法学参考	夜・通信	12	31	70	113	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

シラバス・カリキュラムマップ - 北海道文教大学
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	北海道文教大学
設置者名	学校法人 鶴岡学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

[a8fb72908f3284e9676e304e24280fbf.pdf](#)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(現職) 恵庭リサーチビジネスパーク 株式会社 監査役	令和7年6月 6日～令和9 年度定時評 議員会	法令及び寄付行為 で定められた職務
非常勤	(現職) (株)玉川組 代表取締役社長	令和7年6月 6日～令和9 年度定時評 議員会	法令及び寄付行為 で定められた職務
非常勤	(現職) 名古屋外国語大学副学長 名古屋学芸大学副学長	令和7年6月 6日～令和9 年度定時評 議員会	法令及び寄付行為 で定められた職務
非常勤	(現職) 学校法人東京農業大学 監事	令和7年6月 6日～令和9 年度定時評 議員会	法令及び寄付行為 で定められた職務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	北海道文教大学
設置者名	学校法人 鶴岡学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
開講前年度の12～1月までに来年度の授業を計画し、3月中旬を期限としてシラバスの作成、ポータルシステムへの登録へと進めている。教員には「シラバスの作成に関する研修会について」のFD研修会を開催し、資料「シラバス作成要領」に基づき、①授業の位置づけ、②授業の概要、③到着目標、④授業の方法、⑤ICT活用、⑥実務経験のある教員の教育内容、⑦課題に対するフィードバックの方法、⑧授業計画(学習内容、準備事後学習)⑨成績評価の方法、⑩教科書、⑪参考文献などを示している。シラバス作成後は、シラバスチェック専門部会規程により選出されたシラバスチェック委員により、全科目のシラバスが「シラバスチェック要領」に基づいて内容確認が行われ、4月1日からWEB公開している。	
授業計画書の公表方法	シラバス・カリキュラムマップ - 北海道文教大学
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
各授業科目について、事前にシラバスに記載された「評価の方法」に基づき評価を行い、単位を与えると共に、入学前に教育機関で得た単位について学内の委員会で審議を行い、適当と判断されたものについて単位を認定している。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価においては、客観的な指標の設定としてGPAを算出する制度を定めている。GPAの公表方法として、学生への通知は成績通知表に学期GPA及び通算GPAを表示することを行い、成績証明書には記載しない。各学科にはGPAに基づく学習指導の計画を策定し、学生の学修指導を行うものとする。学期GPAが4期連続1.0未満となった場合は退学を勧告する。GPAの算出方法は以下のとおりで、計算値は小数点第3位以下を四捨五入して標記する。 学期 GPA $\frac{\text{(当該期に評価を受けた学科の GP} \times \text{その科目の単位数) の合計}}{\text{当該期の総履修登録単位数}}$ 通算 GPA $\frac{\text{(各学期に評価を受けた科目の GP} \times \text{その科目の単位数) の合計}}{\text{総履修登録単位数}}$ ※GPとは各授業科目の5段階の成績評価に対応した評点(グレートポイント)	
客観的な指標の算出方法の公表方法	北海道文教大学 GPA(成績評定平均値)に関する取り扱い2018
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

学科ごとに学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を策定し、それに基づきカリキュラムを編成・実施しており、いずれも公表している。

■健康栄養学科 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

履修規定によって必要単位を取得し、必要な修行年限を満たしたうえで、以下の能力を身につけていると認められた学生に「学士（栄養学）」の学位を授与する。

＜知識・技能＞

- ・地域や国際社会における職と健康にかかわる諸問題を解決するため、健康の維持・増進に必要とされる高度な専門知識を体系的に身につける。
- ・データサイエンスを理解・活用し、科学的に根拠に基づき、食環境および生活の質向上に貢献するために必要な能力を身につけている。
- ・他分野と共同しながら、人々の栄養改善・健康増進を実現する指導者として必要な理論と技術を身につけている。

＜思考・判断・表現＞

- ・学んだ知識とその理解を基盤として、食と健康・栄養に関する問題について適切に情報を収集し、科学的に分析・検証することができる。
- ・国際社会における地域や組織で、職務に関する限定的な領域だけでなく、専門知識を活かしつつ、協働できるコミュニケーション力を有している。
- ・食と栄養にかかわる多職種や多機関が連携・協働するために必要なメンバーシップ、リーダーシップを持ち、対象を中心にマネジメントできる能力を持っている。

＜関心・意欲・態度＞

- ・社会人、職業人としての倫理観・使命感から、人の健康の保持・増進に貢献する自覚と意欲をもち、生涯にわたり求められる最新の知識・技術を積極的に高め、必要な情報を発信することができる。
- ・「食・栄養」の視点から、対象者が自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、「住まい」「医療」「介護」「生活支援」について一体的に提案することができる。

■人間科学部 看護学科 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

所定の課程をおさめ、124 単位以上の単位修得と必要単位を満たし、看護の発展と社会へ貢献できる能力及び社会的責任感が身についた人物に学位を授与する。

1-1 社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身に付けている。(思考・判断・表現)

1-2. 看護の対象となる人々とコミュニケーション能力を活用して円滑な関係を構築し、対象理解を深める能力を身につけている。(知識・技能)

2. 看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。(思考・判断・表現)

3. 看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。(知識・技能)

4. 多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている。(知識・技能)

5-1. 学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている。(関心・意欲・態度)

5-2. 科学的思考力と創造的思考力を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力を身につけている。(思考・判断・表現)

■こども発達学科 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

履修規定によって必要単位を取得し、必要な修業年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（こども発達学）」の学位を授与する。

- ・こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいを持つこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。（知識・技能）
- ・教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。（知識・技能）
- ・さらに、保育者、教育者、子育て支援者として、地域社会と保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援するための基本的資質を身につけている。（知識・技能）
- ・教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につけている。（思考・判断・表現）
- ・変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を理解するとともに、情報を収集・分析して課題解決に導く能力を身につけている。（思考・判断・表現）
- ・今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、保育者、教育者に求められる倫理観・使命感を身につけるとともに、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く考慮し、適切に判断し、他と協働して実行しようとする意欲・態度を身につけている。（関心・意欲・態度）

■地域未来学科 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

履修規定によって必要単位を取得し、必要な修業年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（地域未来学）」の学位を授与する。

- ・地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している（知識・技能）。
- ・地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる。（知識・技能）
- ・地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる（知識・技能）。
- ・幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる（思考・判断・表現）。
- ・地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる。（思考・判断・表現）
- ・地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる（関心・意欲・貢献）。

■国際教養学科 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

履修規定によって必要単位を取得し、必要な修業年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（国際学）」の学位を授与する。

- ・学術目的の言語使用に主眼をおいた英語、日本語及び中国語の使用を前提とする複言語教育を通じ、学術目的の言語使用を可とする能力を身につけている。（知識・技能）
- ・専門分野における基本的な知識を系統立てて修得し、そこから得られた知見をもとに世界の諸課題を分析し、研究成果としてまとめる方法論を身につけている。（知識・技能）
- ・複数の専門分野を総合的に理解するとともに、世界の諸地域の課題を理解し分析す

ることのできる幅広い教養を身につけている。(思考・判断・表現)

- ・グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。(関心・意欲・態度)
- ・生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている。(関心・意欲・態度)
- ・世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)

■国際コミュニケーション学科 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

履修規定によって必要単位を取得し、必要な修年年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士 (国際学)」の学位を授与する。

- ・社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語及び中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力を身につけている (知識・技能)
- ・世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての高度な専門知識およびそれらを活用する技能を身につけている。(思考・判断・表現)
- ・世界各地域の活性化という課題につながるための異文化コミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)
- ・生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている。(関心・意欲・態度)
- ・グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている。(関心・意欲・態度)
- ・世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)

■医療保健科学部 看護学科 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

履修規定によって必要単位を取得し、必要な修年年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士 (看護学)」の学位を授与する。

- ・健康状態やその変化に応じた看護に必要な、科学的根拠に基づいた判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。(知識・技能)
- ・地域で暮らす人々の健康や生活を支援するための、多様なケア環境に適した多職種連携・協働チームのあり方と看護師の役割を理解したうえでリーダー的な役割を担うことができる。(知識・技能)
- ・看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と倫理的な思考を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。(思考・判断・表現)
- ・看護過程の展開や臨床判断に必要な問題探究力・問題解決能力を有している。(思考・判断・表現)
- ・医療・看護に関わる社会や時代の変化の本質を考究でき、豊かな人間性と高い倫理観、社会的責任を持ち、時代の変化に合わせて主体的に社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)
- ・グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。(関心・意欲・態度)

■医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

履修規定によって必要単位を取得し、必要な修年年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士 (理学療法学)」の学位を授与する。

- ・理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)
- ・高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけてい

る。(知識・技能)

- ・医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)
- ・予防医療の観点から、健康の増進や維持、生涯にわたる心身の健康づくりに関して幅広いリハビリテーションを担うことができる。(知識・技能)
- ・グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。(関心・意欲・態度)
- ・地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)
- ・幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)
- ・科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探究力と問題解決思考を身につけている。(思考・判断・表現)
- ・臨床現場や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)

■医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

履修規定によって必要単位を取得し、必要な修行年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（作業療法学）」の学位を授与する。

- ・作業療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)
- ・高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)
- ・医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)
- ・予防医療の観点から、健康の増進や維持、生涯にわたる心身の健康づくりに関して幅広いリハビリテーションを担うことができる。(知識・技能)
- ・グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。(関心・意欲・態度)
- ・地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)
- ・幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)
- ・科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探究力と問題解決思考を身につけている。(思考・判断・表現)
- ・臨床現場や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)

卒業の認定に関する
方針の公表方法

[学部・学科・大学院 - 北海道文教大学](#)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	北海道文教大学
設置者名	学校法人 鶴岡学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	事業報告及び財務情報 - 北海道文教大学
収支計算書又は損益計算書	事業報告及び財務情報 - 北海道文教大学
財産目録	事業報告及び財務情報 - 北海道文教大学
事業報告書	事業報告及び財務情報 - 北海道文教大学
監事による監査報告(書)	事業報告及び財務情報 - 北海道文教大学

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称: 中期計画 2.0 対象年度: 2025 年度~2029 年度)	
公表方法: “中期” の検索結果 - 北海道文教大学	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 認証評価、自己点検・評価及び外部評価 - 北海道文教大学
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 認証評価、自己点検・評価及び外部評価 - 北海道文教大学
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人間科学部 健康栄養学科
教育研究上の目的（公表方法： 健康栄養学科 - 北海道文教大学 ）
（概要） 教育理念と人材育成の目的 社会情勢やライフスタイルの変化に柔軟に対応するため、栄養学の知識・技術を基にデータサイエンス教育を多面的に活用することで、食産業、食とスポーツ、食教育における専門性を高めるとともに、予防医療の視点から、人生 100 年時代に全てのひとが元気に活躍し続けられる社会の実現に向け、地域や国際社会の健康問題解決のため活躍できる人材を育成する。 現代社会を生きる人々の健康維持・増進、疾病からの回復の促進、食環境の整備及び QOL の向上などを通して、地域や国際社会の健康・栄養問題の解消に貢献し得る人材の育成を目的としている。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： 3 つのポリシー - 北海道文教大学 ）
（概要） 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー） （知識・技能） ・地域や国際社会における食と健康にかかわる諸問題を解決するために、健康の維持・増進に必要とされる高度な専門知識を体系的に身につけている。 ・データサイエンスを理解・活用し、科学的根拠に基づき、諸侯環境および生活の質控除に貢献するために必要な能力を身につけている。 ・他分野と協働しながら、人々の栄養改善・健康増進を実現する指導者として必要な理論と技術を身につけている。 （思考・判断・表現） ・学んだ知識とその理解を基盤として、食と健康・栄養に関する問題について適切に情報を収集し、科学的に分析・検証することができる ・国際社会における地域や組織で、職務に関する限定的な領域だけでなく、専門知識を活かしつつ、協働できるコミュニケーション力を有している。 ・食と栄養にかかわる多職種や多機関が連携・協働するために義必要なメンバーシップ、リーダーシップを持ち、対象を中心にマネジメントできる能力を持っている。 （関心・意欲・態度） ・社会人、職業人としての倫理観・使命感から、人々の健康の維持・増進に貢献する自覚と意欲をもち、生涯にわたり求められる最新の知識・技術を積極的に高め、必要な情報を発信することができる。 ・「食・栄養」の視点から、対象者が自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」について一体的に提案することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： 3 つのポリシー - 北海道文教大学 ）
（概要） （知識・技能） ・栄養学、健康と病気の概念の理解に必要な専門科目として「社会・環境と健康」「人体の構造と機能」「疾病の成り立ち」「食べ物と健康」の科目群を配置する。 ・管理栄養士が活躍する職場で必要とされる知識・技術を身につけるための専門科目とし

て「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「給食経営管理論」の科目群を配置する。

（思考・判断・表現）

・管理栄養士の業務に関する科学的根拠に基づく適切な計画・実行・判定を行う能力を養うため「総合演習」「総合（卒業研究）」「臨地実習」の科目群を配置する。

関心・意欲・態度）

・明確な管理栄養士像を作り上げるため、導入教育として「管理栄養士概論」「食・生活教育演習」「食・生活教育実習」「栄養学入門」「チーム医療概論」「栄養教諭入門」「基礎科学」「基礎生物学」を配置する。

・高齢者が人生の最後まで自分らしい暮らしをし続けるにあたり、「食・栄養」の重要性を学ぶために「応用栄養学」「栄養教育論」「公衆栄養学」の科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：[3 つのポリシー - 北海道文教大学](#)）

（概要）

社会において管理栄養士として活躍し、食を通じて人々の健康と社会の福祉に貢献したいと考え、そのための教育に前向きに取り組む意欲のある人を受け入れる。

（知識・技能）

管理栄養士の学術的根拠となる栄養学を学ぶために、必要となる生物や化学、国語などの基本的な学力および一般的な計算能力を身につけている。

（思考・判断・表現）

課題に対し「どこが問題なのか」「解決には何が必要か」などを自分で考えることができる人。

（関心・意欲・態度）

多様な考え方を理解する広い視野を持ち、他者と協働して取り組むことに意欲のある人。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：[内部質保証に関する方針等 - 北海道文教大学](#)

学部等名 人間科学部 看護学科

教育研究上の目的（公表方法：[看護学科 - 北海道文教大学](#)）

（概要）

教育理念と人材育成の目的

実学を重視する本学の建学の精神と、高度な知識を有し社会貢献できる人材育成を目指す人間科学部の教育理念の基、ヒューマンケアの基本的な能力および看護の専門知識を活用した実践能力、学修への主体性を有し、自律的な行動ができ、専門職者として研鑽し続ける基本的な能力および社会の一員としての責任を身につけた人間性豊かな人材を輩出する看護基礎教育をめざすことである。

人材育成の目的は、本学と、人間科学部の教育目的に基づき、学修への主体性と自立性を有し、社会の一員としての責任と専門職倫理観を基盤として、看護の専門知識、対象理解能力、問題解決能力を修得して多様なケア環境の場で看護実践を行うための基本的な能力を活かし、看護の発展と社会へ貢献できる人材を輩出することである。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：[3 つのポリシー - 北海道文教大学](#)）

（概要）

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

所定の課程をおさめ、124 単位以上の単位修得と必要単位を満たし、看護の発展と社会へ貢献できる能力及び社会的責任感が身についた人物に学位を授与する。

1-1 社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身に着けている。（思考・判断・表現）

1-2. 看護の対象となる人々とコミュニケーション能力を活用して円滑な関係を構築し、対象理解を深める能力を身につけている。（知識・技能）

2. 看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。（思考・判断・表現）

3. 看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。（知識・技能）

4. 多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている。（知識・技能）

5-1. 学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている。（関心・意欲・態度）

5-2. 科学的思考力と創造的思考力を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力を身につけている。（思考・判断・表現）

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：[3 つのポリシー - 北海道文教大学](#)）

（概要）

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 教育内容

（知識・技能）

- ・対処理解能力を育成するため「基礎看護学」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「地域・在宅看護学」「看護の統合と実践」「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」の加茂億群を配置する。

- ・看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践するために「基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ」「成人看護学実習」「老年看護学実習」「小児看護学実習」「母性看護学実習」「精神看護学実習」「地域・在宅看護論実習」「看護実践マネジメント実習」の科目群を配置する。

- ・保健医療福祉に「における他職種連携能力を育成するため、2 年次他学科との合同科目である「チーム医療概論」「リハビリテーション論」と「地域包括ケアシステム」を配置する。

（思考・判断・表現）

- ・社会の一員としての責任感を育成するため、2 年次に他学科との合同科目である「チーム医療概論」「リハビリテーション論」「地域包括ケアシステム論」を配置する。

- ・専門職倫理観を育成するため、キャリア形成に向けて行動できるように 1 年次に「看護倫理」を配置する。

- ・科学的根拠を探究し創造的思考を育成するために、3 年次に「看護研究Ⅰ」、4 年次に「看護研究Ⅱ」の科目群を配置する。

- ・臨床判断能力を育成するため 3 年次に「看護臨床判断」、4 年次に「臨床判断実習」と段階的に配置する。

- ・国際的視野を育成するため、外国語を用いて読み、書き、聴き、話すこと、看護の専門性を生かして国際貢献に関心が持てるように、外国語と国際保健に関する科目を配置する。

(関心・意欲・態度)

- ・看護専門職としての主体性や自立的行動を育成するために1年次に「看護基礎講座」「医療概論」「看護倫理」、教養科目の「生活と社会環境」「現代医療と福祉・介護」、およびキャリア形成関連科目を配置する。
- ・ICTや電子カルテが活用できるように情報処理関連の科目を配置する。

2. 教育方法

- ・キャリア形成に向けて行動できるように卒業到達度を学生へ明示する。
- ・コミュニケーション能力を育成するため、「読む、書く、聴く、話す」を使いこなせるように講義、演習、実習のすべての科目においてアクティブラーニングを活用する。
- ・看護の対象である人々に真摯に向き合い理解することができるように当事者の講話を聴く機会を設ける。
- ・臨床判断や看護過程の展開能力を育成するため、他者の意見を取り入れて思考を深めることができるようにアクティブラーニングを活用する。
- ・看護の専門知識を修得するため、対象者に必要な看護実践ができるように多様な実習施設を配置する。
- ・人々の健康課題解決のため、看護技術を活用できるように紙上事例などシミュレーション教育を導入する。
- ・看護の実践がイメージできるように看護実践者が講義に参加できる機会を設ける。
- ・学習への主体性を育成するため、看護の対象を理解しようと素直に努力することができることや学習の必要性を自覚できるように、すべての科目でアクティブラーニングを活用する。
- ・冷静に自己を見つめることができるように口語、演習、実習のすべてにおいて、横断的に対話による内省を活用する。

3. 教育評価

- ・ヒューマンケアの基本的な能力を、各科目の到達目標に応じた評価基準を明らかにし、レポートなどにより適切に評価する。
- ・看護の基盤となる問題解決能力を、各科目の到達目標に応じた思考・判断・方言の基準を用いて技術試験などにより適切に評価する。
- ・看護の専門知識を、各科目の特性に応じた評価基準を明らかにし、試験及びレポートなどの成果物により客観的に評価する。
- ・研究の基本的な能力を各科目の到達目標に応じて評価基準をあきらかにし、レポートなどにより適切に評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：[3つのポリシー - 北海道文教大学](#)）

(概要)

学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

(知識・技能)

- ・人の話を聴いて理解し発言する能力を活用して人間関係を形成できるコミュニケーション能力がある人。

(思考・判断・表現)

- ・多様な価値観を認める柔軟性がある人。
- ・自ら課題を見つけ探究する能力がある人。
- ・科学的思考力と論理的思考力の基礎を身に付けている人。

(関心・意欲・態度)

- ・学校生活あるいは社会の中で責任ある行動をとることができる人。
- ・人々を尊重し、社会的規範を守り礼儀正しく人と接することができる人。
- ・看護を学ぶための学習に意欲的で、看護職への志望動機が明確である人。

- ・学習習慣が身につけており、自己管理ができる人。
- ・自身の行動を振り返り、自分を高め続けようとする姿勢が身につけている人。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：[内部質保証に関する方針等 - 北海道文教大学](#)

学部等名 人間科学部 こども発達学科

教育研究上の目的（公表方法：[こども発達学科 - 北海道文教大学](#)）

（概要）

近年、親子関係、家族のあり方、家族を取り巻く近隣社会の変容などによるこどもの虐待やいじめ、虐待に追い込まれる親の問題や養育拒否、児童生徒の学力低下など、こどもを取り巻く情勢は大きく変化し、保育者によるこどもの発達ならびに親への支援のあり方にも根本的な見直しが必要となっている。また、障がいのあるこどもは、他のこどもとの生活を通して共に成長することが求められており、集団的な発達が重視されている。さらに幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成を培う重要なものとして一層の充実が期待され、保育所・幼稚園から小学校へのなめらかな接続を可能とする幼保小連携は、こどもの発達や学びの連続性を保証するためにより豊かな展開が求められている、このような現今の子育て・保育に関するニーズの多様化、複雑化、幼児教育と小学校教育の円滑な接続などに対応するため、幼稚園教諭・保育士の育成と小学校教諭、特別支援学校教諭の養成を別個に独立したものとして行うのではなく、それらを総合し、対人コミュニケーション能力を高め、資質、幅広い能力を備えた教育者・保育者、地域における子育て支援者を育成することが目的であり、教育理念である。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：[3つのポリシー - 北海道文教大学](#)）

（概要）

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

履修規定によって必要単位を取得し、必要な修行年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（こども発達学）」の学位を授与する。

- ・こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、障がいを有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。（知識・技能）
- ・教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。（知識・技能）
- ・さらに、保育者、教育者、子育て支援者として、地域社会と保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援するための基本的資質を身につけている。（知識・技能）
- ・教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につけている。（思考・判断・表現）
- ・変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）
- ・今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、保護者、教育者等に求められ

る倫理観・使命感を身に着けるとともに、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く考慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。（関心・意欲・態度）

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：[3 つのポリシー - 北海道文教大学](#)）

（概要）

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

幼稚園・小学校・特別支援の教育者及び保育者に必要な知識・技術を培うため、教養科目、専門基礎科目、専門科目を体系的に配置した教育課程を編成する。{「保育士免許」「幼稚園教諭一種免許状」「小学校教諭一種免許状」}{「保育士資格」「幼稚園教員一種免許状」「特別支援学校教諭一種免許状」}{「幼稚園教諭一種免許状」「小学校教諭一種免許状」「特別支援学校教諭一種免許状」}のいずれかの組み合わせで3つの資格・免許を取得することができる

1. 教育内容（知識・技能）

- ・初年次は「基礎ゼミナール」等による科学的探究方法への入門教育や、文章表現能力形成等の基礎教育科目である「表現Ⅳ日本語表現」に加え、こどもの成長・発達やそれを実現する教育についての科目として「幼児と人間関係」等を配置する。
- ・教育・保育・子育て支援に関わる者として求められる知識・能力を養うため、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものそれぞれについて広く学ぶための科目として「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」、「教育基礎論」、「特別支援教育総論」等を設置する。
- ・さらに、保育者・教育者・子育て支援者のいずれについて一層深い知識を身につけるための科目として「保育者論」「教職入門」「こども家庭支援論」等を配置する。

（思考・判断・表現）

- ・教育・保育・子育て支援に関わる者としての実践力・コミュニケーション能力を養うため「学外・校外実習」の科目群を配置する。
- ・主体的・探究的に教育・保育のあり方を考える能力を養うために、「こども学総合演習Ⅰ・Ⅱ」等を配置する。

（関心・意欲・態度）

- ・こどもの幸せを願い、こどもとともに成長することを喜びとする資質をベースに、保育者・教育者としての資質・能力を形成するために、心理学・教育学・特別支援教育学等の科学的見地を学習する科目として「こどもの心理学Ⅰ・Ⅱ」「教育相談の基礎と方法」「発達障がい等教育総論」等を配置する。

2. 教育方針

- ・初年次の基礎ゼミナールは少人数ゼミ形式で行う。
- ・実習の前後に実習準備の講義、反省の事後指導を配置するなどして、理論と実践の結合を図り、実践的な能力を形成する。

3. 教育評価

- ・科目の特性に応じて、試験、レポート及び成果物等により、幅広い知識の修得度を客観的に評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：[3 つのポリシー - 北海道文教大学](#)）

(概要) 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー） こどもへのかかわりを求める資質を開花させる目的意識があり、こどもに関する教育学・保育学・特別支援教育学等の科学的理論、学問、さらには実習等の実践的な学修を意欲的に行う意思のある次のような人を受け入る。 (知識・技能) ・基礎・基本的な知識・技能を習得するための勉学の習慣をもっている人。 (思考・判断・表現) ・社会で活躍するための基礎となる知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をもっている人。 (関心・意欲・態度) ・こどもの生活や成長に強い関心を持ち、何事にも積極的にチャレンジする意欲のある人。 ・いろいろな人とのかかわり、意思や思いを伝えあいたいと願う人、コミュニケーション能力を常に高めたいと考える人。 ・目標の実現に向かって努力を続ける学習意欲をもっている人。 ・広い視能力野を持つ努力を怠らず、人々の生活に幅広く目を向け、論理的思考を持ち、バランス感覚に優れた人格でありたいと願う人。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：内部質保証に関する方針等 - 北海道文教大学
--

学部等名 人間科学部 地域未来学科
教育研究上の目的（公表方法：地域未来学科 - 北海道文教大学）
(概要) 歴史や文化をはじめとする多様な地域資源の価値について理解し、地域の課題を発見、解決できる力に加え、新たな価値を生み出す創造性とそれらを次の時代に継承するための教育学に関する専門的知識・技術をもって、持続可能な地域社会の実現を志す人材を養成する。また、包括的かつ持続可能な地域コミュニティの共創にむけて多様な主体と連携し、デジタル化・DX化等の時代の変化に対応しつつ、主体的に行動できる地域社会の中核的コーディネーターとして、地域の経営に資する人材や、地域の未来を担う人づくりに貢献できる人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：3つのポリシー - 北海道文教大学）
(概要) 履修規定によって必要単位を取得し、必要な修業年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（地域未来学）」の学位を授与する。 ・地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している（知識・技能）。 ・地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる。（知識・技能） ・地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包括的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる（知識・技能）。 ・幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地

域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる（思考・判断・表現）。

- ・地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる。（思・判断・表現）
- ・地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる（関心・意欲・貢献）

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：[3つのポリシー](#) - [北海道文教大学](#)）

（概要）

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

・地域社会の発展および持続可能な社会の実現のために必要な専門知識・技術を培うため、教養科目、専門基礎科目、専門科目を体系的に配置した教育課程を編成する。

①教育内容

（知識・技能）

- ・教育学および社会教育に関する専門的知識・技能の育成、および生涯にわたり学び続ける要素を育成するために「基礎教育」「生涯教育」「地域教育」の科目群および教養科目を配置する。
- ・地域の歴史や文化、資源の価値を深く理解し、地域資源を活用した新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現するために必要な企画力、実践力および発信力を育成するために「地域理解」「国際理解教育」「まちづくり・地域政策」「実務実践」の科目群を配置する。
- ・地域に関わる様々な領域の人々との関係性を構築し、多様な主体間の協働・物事の推進を支えるために必要となるコミュニケーション能力・協働力・調整力を育成するために「地域理解」「地域創造」「地域未来基礎」「地域未来演習」の科目群を配置する。

（思考・判断・表現）

- ・地域における諸課題を発見・分析できる能力、および課題解決に向けて主体的かつ積極的に行動してその成果を波及・発展させる能力を育成するために「地域創造」「地域未来演習」「地域未来探究」の科目群および「卒業研究」を配置する。
- ・デジタル化された情報の収集・分析を通して、地域における教育の実情や議題を的確に把握するために必要となる情報収集・処理能力、および変化に対応するための柔軟な思考力と発信力を育成するために「自然と科学（教養科目）」「地域未来探究」の科目群および「卒業研究」を配置する。

（関心・意欲・態度）

- ・地域で活躍する多様な主体による、自由で活発な学習活動と地域社会をつなぐためのファシリテート能力を育成するために「生涯教育」「地域教育」「地域創造」の科目群を配置する。

②教育方法

- ・講義形式の授業の他に、学生の主体的な学びを引き出すために、少人数授業、学生参加型授業、ICTを活用した授業などのアクティブラーニングを実践する。
- ・問題発見とその解決および論理的思考力を養うために、課題について能動的に探索することを重視した教育を実施する。
- ・協働して課題を解決し物事を推進するために必要なコミュニケーション能力を高めるために、グループ学習を取り入れる。
- ・先進的な研究成果の理解力、仮説の検証を含めた探究力、論理的な問題解決能力を身につけるための科目は少人数ゼミ形式で研究の基礎を学ぶための教育を展開する。

③教育評価

- ・科目の特性に応じて、授業参加態度、小テスト、理解度確認テスト、レポート及び成果物の提出などシラバスに記載される到達目標の学修到達度を客観的に評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：3つのポリシー - 北海道文教大学） （概要） 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー） 地域を発展させたいという目的意識があり、持続可能な未来社会の実現や地域社会の支援を意欲的に行う意思のある次のような人を受け入れる。 （知識・技能） ・ 基本的な知識・技能を習得するための学習習慣をもっている人。 （思考・判断：・態度） ・ 社会で活躍するための基礎となる知識・技能を活用して問題を解決するために必要な論理的思考力・判断力・表現力をもっている人。 （関心・意欲・態度） ・ 地域の発展や持続可能な社会の実現に強い関心を持ち、何事にも積極的にチャレンジする意欲のある人。 ・ 地域に関わる様々な領域の人々と協働したいと願う人、コミュニケーション能力を常に高めたいと考える人。 ・ 目標の実現に向かって努力を続ける学習意欲をもっている人。 ・ 人々の生活に幅広く目を向けバランス感覚に優れた人格でありたいと願う人。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：内部質保証に関する方針等 - 北海道文教大学
--

学部等名 国際学部 国際教養学科
教育研究上の目的（公表方法：国際教養学科 - 北海道文教大学） （概要） 変化し続ける世界の中で、英語と中国語を中心とした高い言語運用能力を用い、世界の政治や経済を社会科学と視座から分析し、社会現象の本質と情報の真偽を見極めることができる国際教養を身につけ、さらには、世界の社会文化的多様性について確かな理解に基づき、主体的に共生・協働できる、日本と世界を舞台に活躍できる「グローバル人材」の素養を身につけた人材の育成を目的とする。同時に、身につけた国際教養を用いて地域の課題を分析し、地域の発展に貢献できる「グローバル人材」の素養のある国際教養人を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：3つのポリシー - 北海道文教大学） （概要） 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー） 履修規定によって必要単位を取得し、必要な修年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（国際学）」の学位を授与する。 ・ 学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力（技能・表現力）を身につけている。（知識・技能） ・ 専門分野における基本的な知識を系統だてて修得し、そこから得られた知見をもとに世界の諸課題を分析し、研究成果としてまとめる方法論を身につけている。（知識・技能） ・ 複数の専門分野を総合的に理解するとともに、世界の諸地域の課題を理解し分析するこ

とのできる幅広い教養を身につけている。 ・グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。（関心・意欲・態度） ・生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている（関心・意欲・態度） ・世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。（関心・意欲・態度）
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：3 つのポリシー - 北海道文教大学） （概要） 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー） 「グローバル人材」と「グローバル人材」の素養を併せ持つ「国際教養人」の育成のため、「全学共通科目」、「学部共通科目」、「国際教養科目」、「キャリア形成」、「語学研修」、「卒業研究」を編成する。 1. 教育内容 （知識・技術） ・学術的調査・研究のための英語を学ぶ「国際教養英語」科目群を配置する。 ・社会科学から見る国際関係を学ぶ「国際政治経済」科目群を配置する。 ・世界諸地域の文化や社会について学ぶ「国際地域研究」科目群を配置する。 （思考・判断・表現） ・地元地域について学び、地域振興や地域貢献、またキャリア意識にもつなげる北海道スタディーズ科目群を配置する。 ・学科の専門科目などを通じた学習を基に、自分が専門的に研究するディシプリンを定めた上で各種の情報を収集分析し、課題解決へ導くために自ら発信・行動する「卒業研究プロジェクトⅠ～Ⅱ」を配置する。 ・英語とともに中国語も必修とし複言語教育を行うことを通じて、異文化理解力と異文化コミュニケーション力を高める。 （関心・意欲・態度） ・生涯にわたって主体的に学び続ける価値観を身につけるための「社会人基礎力」科目、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけるための関連科目を配置する。 ・「ニセコ国際研修」、「短期語学研修」、「インターンシップ（国内外）」「アウトドアツーリズム研修」などの体験的な学修時活動の充実を図る。 ・自ら選択した課題をまず理解するために自らデザインした経験をするための研修を認める「グローバル・フィールド・スタディーズⅠ～Ⅳ」などタスク先行型の科目を設置する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：3 つのポリシー - 北海道文教大学） （概要） 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー） グローバル化が進む社会において不可欠な国際的な視点から、グローバル社会の課題を解決するとともに、北海道を愛し、世界に発信できる意欲をもつ次のような人材を求める。 （知識・技能） ・英語の高等学校卒業相当の知識を有している人。 ・国際的な事象を理解するための社会の高等学校卒業相当の知識を有している人。 ・基礎・基本的な知識・技能の習得するための勉学の習慣を持っている人。 （思考・判断・表現） ・国際社会で活躍するための基礎となる知識・技能を活用して課題を解決するために必要

な思考力・表現力を持っている人。 (関心・意欲・態度) ・生涯にわたって世界と地域の発展に貢献しようという高い意思を持っている人。 ・外国語による世界理解と自己表現が可能な言語能力の獲得に、強い意思を持っている人。 ・北海道と正解に強い関心を持ち、基礎学力と論理的思考を持ち、課題に取り組む意欲を持っている人。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：内部質保証に関する方針等 - 北海道文教大学
--

学部等名 国際学部 国際コミュニケーション学科
教育研究上の目的（公表方法：国際コミュニケーション学科 - 北海道文教大学）
（概要） 高い外国語コミュニケーション能力、および多文化を理解し、それに対応できる異文化コミュニケーション能力を有する「グローバル人材」を育成する。そして、観光インバウンドを中心に急速に国際化が進む中、特に北海道において多様な社会的背景を持った海外からの来訪客をもてなす心及び海外と地域の人と人をつなげるための知識を身につけることで、多文化共生社会を構築し、地域の発展に貢献できる高い国際コミュニケーション力を持つ「グローバル人材」を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：3つのポリシー - 北海道文教大学）
（概要） 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー） 履修規定によって必要単位を取得し、必要な修行年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（国際学）」の学位を授与する。 ・社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力を身につけている。（知識・技能） ・世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての高度な専門知識、およびそれらを活用する技術を身につけている。（知識・技能） ・北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。 ・世界各地域の活性化という課題につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけている。（思考・判断・表現） ・生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている。（関心・意欲・態度） ・グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている。（関心・意欲・態度） ・世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。（関心・意欲・態度）

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：[3 つのポリシー](#) - [北海道文教大学](#)）

（概要）

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

「グローバル人材」と「グローバル人材」の素養を併せ持つ「国際教養人」の育成のため、「全学共通科目」、「学部共通科目」、「国際コミュニケーション科目」、「キャリア形成」、「語学研修」、「卒業研究」を編成する。

1. 教育内容（知識・技術）

- ・社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語及び中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力及び情報分析・発信力を身につけるための「言語プロフェッショナル科目群」および「実用日本語科目群」を配置し、ビジネスや観光場面を中心とした言語使用に焦点をあてた英語と中国語の運用能力、および日本語を含めた情報分析・活用能力を養成する。
- ・世界と地域の視点から国際社会と地域社会を捉える「国際・異文化コミュニケーション科目群」を配置するとともに、地元地域について学び、地域振興や地域貢献、またキャリア意識にもつなげる「北海道スタディーズ科目群」を配置する。

（思考・判断・表現）

- ・学生の主体的な学びを引き出すために、ニセコ国際研修、短期語学研修、インターンシップ（国内外）、アウトドア・ツーリズムなどの体験的な学修活動の充実を図る。また学科の専門科目などを通じた学習を基に、自分が専門的に研究するディシプリンを定め、たとえば各種の情報を収集分析し、課題解決へ導くために自ら発信・行動する「卒業研究プロジェクトⅠ～Ⅱ」を配置する。
- ・課題実行のための異文化理解と異文化コミュニケーション力を高める「国際・異文化コミュニケーション科目群」を設置する。

（関心・意欲・態度）

- ・生涯にわたって主体的に学び続ける価値観を身につけるための「社会人基礎力科目群」、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけるための関連科目（「世界と北海道」「ニセコ国際研修」「地域連携プロジェクト」などの「北海道スタディーズ科目群」）を設置する。
- ・グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身に着けるための各科目（「English for Study Abroad」「中国語コミュニケーション」「国際コミュニケーション演習」「異文化理解論」「日本語表現技法Ⅰ（プレゼンテーション）」などの表現・コミュニケーション系科目）、および社会人・職業人一般としての倫理観、使命感を身につけるためのキャリア関連科目を配置する。

2. 教育方法

- ・人材養成の目的に則して、講義形式の授業の他に、学生の主体的な学びを引き出すために、少人数授業、習熟度別授業、双方向・学生参加型授業、課題解決・探究型授業、ICTを活用した授業などのアクティブ・ラーニングを実践する。
- ・研修（国内外）、海外留学、インターンシップ（国内外）、アウトドアツーリズムなどの体験的な学修活動の充実を図るなど、教育方法の転換を図る。
- ・外国人教員による授業の比率を高め、外国語学修環境を提供する。
- ・学生面談などの授業時間外での学修指導の充実を図る。

3. 教育評価

- ・シラバスに明示された各科目の到達目標、学修内容、準備学修の内容・時間、成績評価の方法・基準に基づいて客観的に評価する。
- ・海外留学・研修、インターンシップは研修地での評価にもとづき単位認定を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：[3 つのポリシー - 北海道文教大学](#)）

（概要）

学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

グローバル化が進む社会において不可欠な国際的な視点から、グローバル社会の課題を解決するとともに、北海道を愛し、世界に発信できる意欲をもつ次のような人材を求める。

（知識・技能）

- ・英語の高等学校卒業相当の知識を有している人。
- ・基礎・基本的な知識・技能の習得するための勉学の習慣を持っている人。

（思考・判断・表現）

- ・国際社会で活躍するための基礎となる知識・技能および課題を解決するための基礎的な思考力・判断力・表現力を持っている人。
- ・国際社会および地域社会の課題実行のためのコミュニケーション能力の必要性を理解し、その基礎能力と志向を持っている人。

（関心・意欲・態度）

- ・生涯にわたって学び続けられる意欲を持っている人。
- ・外国語による世界理解と自己表現が可能な言語能力の獲得に、強い意欲を持っている人。
- ・北海道と世界に強い関心を持ち、課題に取り組む意欲を持っている人。
- ・自らの将来において、海外生活や地域の現場で協働する意欲を持っている人。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：[内部質保証に関する方針等 - 北海道文教大学](#)

学部等名 医療保健科学部 看護学科

教育研究上の目的（公表方法：[看護学科 - 北海道文教大学](#)）

（概要）

実学を重視する本学の建学の精神と、医療保健科学部の医療における職業人としての専門知識や技能に加えて、豊かな人間性と社会性を携え、多職種連携に柔軟に対応できる高度な人材を育成するという教育目的を基盤とする。本学科は、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考を有する看護師としての高度専門化に対応した看護実践能力を有し、生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献でき、多様なケア環境に適した多職種連携・協働チームにおいてリーダー的役割が担える人材を育成する。このため、看護学科における人材育成の目的は、様々な健康状態にある人とのかかわることのできる専門的知識・技術を修得し、科学的根拠に基づいた看護実践力を身につけるとともに、柔軟に社会や時代の変化に対応でき、多職種と協働し包括ケアのリーダー的な役割を担い、グローバル化の進展や医療のデジタル化と関連するテクノロジーの進化に対応できる能力を有した人材を輩出することである。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：[3 つのポリシー - 北海道文教大学](#)）

(概要) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー） 履修規定によって必要単位を取得し、必要な修年年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（看護学）」の学位を授与する。 ・健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。（知識・技能） ・地域で暮らす人々の健康や生活を支援するための、多様なケア環境に適した多職種連携・協働チームのあり方と看護師の役割を理解したうえでリーダー的な役割を担うことができる。（知識・技能） ・看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。（思考・判断・表現） ・看護過程の展開や臨床判断に必要となる問題探究力・問題解決能力を有している。（思考・判断・表現） ・医療・看護に関わる社会や時代の変化の本質を考究でき、豊かな人間性と高い倫理観、社会的責任を持ち、時代の変化に合わせて主体的に社会を支えることができる。（関心・意欲・態度） ・グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。（関心・意欲・態度）
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：3 つのポリシー - 北海道文教大学）
(概要) 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー） ・看護師に必要な知識・技術を培うため、教養科目、専門基礎科目、専門科目を体系的に配置した教育課程を編成する。 ・体系的に講義・演習科目を配置したのち集大成として実習科目を配置する。 ・看護師国家試験受験資格を得ることができる。 1. 教育内容 (知識・技能) ・看護に必要となる、科学的根拠に基づいた判断力・思考力・対象理解力を育成するために「基礎看護学」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「地域・在宅看護論」「看護の統合と実践」「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」の科目群を配置する。 ・看護師としての実践能力を育成するために「基礎看護学」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「地域・在宅看護論」「看護の統合と実践」の科目を配置する。 ・保健医療福祉における多職種連携能力を育成するため、その重要性が理解できるように「地域包括ケアシステム論」「保健医療福祉行政論」を配置する。また、他学科との合同科目である「チーム医療概論」を配置する。 ・I T Cや電子カルテが活用できるように情報処理科目を配置する。 (思考・判断・表現) ・文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考を育成するために教養科目の人文系科目群、教養科目の理工系科目群を配置する。 ・看護過程の展開や臨床判断に必要となる問題探究力・問題解決能力を育成するために、「臨地実習」の科目群および「看護過程論」、各看護領域における看護学の展開に関する科目を配置する。 (関心・意欲・態度) ・医療・看護に関わる社会や時代の変化の本質を考究でき、豊かな人間性と高い倫理観、社会的責任感をもつことができるために「看護基礎講座」「医療概論」「看護倫理」、

教養科目の「生活と社会環境」「現代医療と福祉・介護」、およびキャリア形成関連科目を配置する。 ・グローバル化に対応し国際的視野を育成するため、外国語を用いて読み、書き、話すこと、看護の専門性を生かして国際貢献に関心が持てるように、「国際看護学」「医療英語」「看護学英語文献購読」、および教養科目の語学系科目群および研修を主体とした総合領域の科目群を配置する。 ・生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できるようにするために看護研究に関する科目を配置する。 ・初年次教育科目である「総合教養講座」においてSDGsを学ぶことにより、大学における学修内容をSDGsの視点で考えることができる態度を養う。 2. 教育方法 ・以下の能力を有するために全ての科目でアクティブラーニングを活用する。 - a 他者の意見を取り入れながら思考を深めた臨床判断や看護過程の展開能力 - b 看護の対象を理解しようと素直に努力できる力 - c コミュニケーション能力 - d 学習の必要性を自覚し主体的に取り組める力 ・人々の健康課題解決のために看護技術をかつようできるように、紙上事例などシミュレーション教育を導入する。 ・看護の対象である人々に真摯に向き合い理解することができるように、当事者の講話を聴く機会を設ける。 ・看護の実践がイメージできるように、看護実践者が講義に参加できるように多様な実習施設を配置する。 3. 教育評価 ・科目の特性に応じて、試験、レポート及び成果物等により、幅広い知識の修得度を客観的に評価する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：3つのポリシー - 北海道文教大学） （概要） 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー） （知識・技能） ・基礎学力を有すると共に、他者の話を傾聴し良好な人間関係を形成できるコミュニケーション能力がある人。 （思考・判断・表現） ・グローバルな視点を持ち、多様な価値観を認める柔軟性がある人。 ・柔軟に社会の変化に対応し、自ら課題を見つけ探究する能力がある人。 ・科学的思考力と論理的思考力の基礎を身に付けている人。 （関心・意欲・態度） ・学校生活あるいは社会の中で責任ある行動をとることができる人。 ・人々を尊重し、社会的規範を守り礼儀正しく人と接することができる人。 ・看護を学ぶための学習に意欲的で、看護職への志望動機が明確である人。 ・学習習慣が身についており、自己管理ができる人。 ・自身の行動を振り返り、自分を高め続けようとする姿勢が身についている人。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：[内部質保証に関する方針等 - 北海道文教大学](#)

学部等名 医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻
教育研究上の目的（公表方法： 理学療法学専攻 - 北海道文教大学 ）
（概要） 本学の建学の精神を基本として、豊かな人間性と高い倫理観、健全な社会性を持ち幅広い専門知識と技術を有し、対象者に対して適切な理学療法を実践できる能力、多職種と適切な連携をとることができ、地域社会に貢献できる能力、データサイエンスを基盤とした科学的な根拠に基づいて物事を思考することができ、高度化した医療や様々な保健医療分野の課題に対応できる人材を育成することを教育理念とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： 3つのポリシー - 北海道文教大学 ）
（概要） 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー） 本学に4年以上在学し、教養科目、専門基礎科目、専門科目から理学療法専攻が定める科目を履修し、計124単位以上を修得し、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（理学療法学）」の学位を授与します。 ・理学療法をおこなうための基本的な専門知識・技術を身につけている（知識・技能） ・高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。（知識・技能） ・医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。（思考・技能） ・予防医療の観点から、健康の増進や維持、生涯にわたる心身の健康づくりに関して幅広いリハビリテーションを担うことができる。（知識・技能） ・グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。（関心・意欲・態度） ・地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。（関心・意欲・態度） ・幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。（関心・意欲・態度） ・科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探究力と問題解決思考を身につけている。（思考・判断・表現） ・臨床現場や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている。（思考・判断・表現）
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： 3つのポリシー - 北海道文教大学 ）
（概要） 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー） ・リハビリテーション学科理学療法学専攻は、理学療法士に必要な知識・技術を培うため、教養科目、専門基礎科目、専門科目を体系的に配置した教育課程を編成する。 ・理学療法士国家試験資格を得ることができる。 1. 教育内容（知識・技能） ・理学療法士の知識・技術修得の基盤となる専門基礎科目として「人体の構造と機能及び心身の発達」「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」「理学療法基礎」の科目群を配置する。 ・理学療法士としての専門性を高める専門科目として「基礎理学療法学」「理学療法管理学」「理学療法評価学」「地域理学療法学」「臨床実習」の科目群を配置する。 ・医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析して解決できる能力を育成するため、臨床実習の科目群、理学療法研究に関する科目、およびデータサイエンス・AI入門」「数理・データサイエンス・AI実践」「統計の基礎」「医療統計学」「統

計と社会調査法」を配置する。

- ・予防医療の観点から幅広いリハビリテーションを担うことができる能力を育成するため「リハビリテーション栄養学」「公衆衛生学」「スポーツ領域理学療法学実習」「トレーニング・コンデショニング理学療法学実習」を配置する。

(思考・判断・表現)

- ・理学療法分野における課題を探究する能力を養うために、4年次研究(理学療法研究)につながる科目群(理学療法研究法、理学療法研究セミナー)を配置する。
- ・臨床場面や研究において対応できるコミュニケーション能力を育成するため、「臨床実習」の科目群、4年次研究(理学療法研究)を配置する。

(関心・意欲・態度)

- ・グローバル化に対応し国際的視野を育成するため、教養科目の外国語の科目群および研修を主体とした総合領域の科目群を配置する。
- ・地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築ことができる人材を養成するために「臨床実習Ⅱ(訪問・通所)」「医学概論」「チーム医療概論」「地域包括ケアシステム論」「地域理学療法学」を配置する。
- ・幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる力を養うために教養科目の他「医学概論」「終末期医療」、理学療法研究に関する科目を配置する。
- ・初年次教育科目である「総合教養講座」においてSDGsを学ぶことにより、大学における学修内容をSDGs視点で考えることができる態度を養う。

2. 教育方法

- ・先進的な研究成果の理解力、課題探究能力、論理的な問題解決能力を身につけるための科目群は少人数ゼミ形式で研究の基礎を学ぶための教育を展開する。
- ・問題発見とその解決および論理的思考力を養うために、課題について能動的に自ら探究することを重視した教育(アクティブラーニング)を実施する。授業の事前・事後における主体的な学修を促進する。
- ・知的好奇心すなわち問題発見能力を養うために、また、コミュニケーション能力を高めるために、グループ学習など対話型、学生参加型の授業法を取り入れる。
- ・理学療法士としての基本的技能を身につけるために、臨床実習は診療参加型の実習形式で行う。
- ・評価結果について、学生に十分なフィードバックを行う。

3. 教育評価

- ・科目の特性に応じて、授業参加態度、小テスト、理解度確認テスト、レポート及び成果物提出などシラバスに記載される到達目標の学修到達度を客観的に評価する。

入学者の受入れに関する方針(公表方法：[3つのポリシー - 北海道文教大学](#))

(概要)

学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

(知識・技能)

- ・理学療法学を学ぶために必要な基礎学力を持つ人。
- ・様々な考え方を持つ他者と人間関係を形成できるコミュニケーション能力のある人。

(思考・判断・表現)

- ・グローバルな視点を持ち、多様な生き方や考え方を理解できる人。
- ・科学的思考と論理的思考力の基礎を身につけている人。
- ・自分の考えをわかりやすく説明できる人。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：[内部質保証に関する方針等 - 北海道文教大学](#)

学部等名 医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻
教育研究上の目的（公表方法： 作業療法学専攻 - 北海道文教大学 ）
（概要） 本学の建学の精神を基本として、豊かな人間性と高い倫理観、健全な社会性を持ち幅広い専門知識と技術を有し、対象者に対して適切な作業療法を実践できる能力、多職種と適切な連携をとることができ、地域社会に貢献できる能力、データサイエンスを基盤とした科学的な根拠に基づいて物事を思考することができ、高度化した医療や様々な保健医療分野の課題に対応できる人材を育成することを教育理念とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： 3つのポリシー - 北海道文教大学 ）
（概要） 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー） 履修規定によって必要単位を取得し、必要な修行年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（作業療法学）」の学位を授与する。 ・作業療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。（知識・技能） ・高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。（知識・技能） ・医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。（知識・技能） ・予防医療の観点から、健康の増進や維持、生涯にわたる心身の健康づくりに関して幅広いリハビリテーションを担うことができる。（知識・技能） ・グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。（関心・意欲・態度） ・地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。（関心・意欲・態度） ・幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。（関心・意欲・態度） ・科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探究力と問題解決思考を身につけている。（思考・判断・表現） ・臨床現場や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている。（思考・判断・表現）
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： 3つのポリシー - 北海道文教大学 ）

(概要)

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

- ・リハビリテーション学科作業療法学専攻は、作業療法士に必要な知識・技術を培うため、教養科目、専門基礎科目、専門科目を体系的に配置した教育課程を編成する。
- ・作業療法士国家試験資格を得ることができる。

1. 教育内容（知識・技能）

- ・作業療法士の知識・技術修得の基盤となる専門基礎科目として「人体の構造と機能及び心身の発達」「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」の科目群を配置する。
- ・作業療法士としての専門性を高める専門科目として「基礎作業療法学」「作業療法管理学」「作業療法評価学」「作業療法治療学」「地域作業療法学」「臨床実習」の科目群を配置する。
- ・医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析して解決できる能力を育成するため、臨床実習の科目群、作業療法研究に関する科目、およびデータサイエンス・AI 入門」「数理・データサイエンス・AI 実践」「統計の基礎」「統計と社会調査法」を配置する。
- ・予防医療の観点から幅広いリハビリテーションを担うことができる能力を育成するため「リハビリテーション栄養学」「公衆衛生学」「産業作業療法学」を配置する。

(思考・判断・表現)

- ・臨床場面における実践力・コミュニケーション能力を養うため「臨床実習」の科目群を配置する。
- ・作業療法分野における課題を探究する能力を養うために、「数理・データサイエンス・AI 入門」、「数理・データサイエンス・AI 実践」、「作業療法研究法演習Ⅰ、Ⅱ」を配置する。
- ・臨床場面や研究において対応できるコミュニケーション能力を育成するため、「臨床実習」の科目群、「作業療法件法演習Ⅰ、Ⅱ」を配置する。

(関心・意欲・態度)

- ・グローバル化に対応し国際的視野を育成するため、教養科目の外国語の科目群および研修を主体とした総合領域の科目群を配置する。
- ・地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築ことができる人材を養成するために「訪問・通所実習」「医学概論」「チーム医療概論」「地域包括ケアシステム論」および「地域作業療法学」を配置する。
- ・幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる力を養うために教養科目の他「医学概論」「終末期医療」、作業療法研究に関する科目を配置する。
- ・作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自立性と個別性を尊重できる態度を養うために「生活行為向上作業療法学」を配置する。
- ・初年次教育科目である「総合教養講座」においてSDGsを学ぶことにより、大学における学修内容をSDGs視点で考えることができる態度を養う。

2. 教育方法

- ・先進的な研究成果の理解力、課題探究能力、論理的な問題解決能力を身につけるための科目群は少人数ゼミ形式で研究の基礎を学ぶための教育を展開する。
- ・問題発見とその解決および論理的思考力を養うために、課題について能動的に自ら探究することを重視した教育（アクティブラーニング）を実施する。授業の事前・事後における主体的な学修を促進する。
- ・知的好奇心すなわち問題発見能力を養うために、また、コミュニケーション能力を高めるために、グループ学習など対話型、学生参加型の授業法を取り入れる。
- ・作業療法士としての基本的技能を身につけるために、臨床実習はクリニカルクラークシップ（臨書参加型臨床実習）形式で行う。
- ・評価結果について、学生に十分なフィードバックを行う。

3. 教育評価

・科目の特性に応じて、授業参加態度、小テスト、理解度確認テスト、レポート及び成果物提出などシラバスに記載される到達目標の学修到達度を客観的に評価する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：3つのポリシー - 北海道文教大学） （概要） 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー） ・作業療法学として高度な専門知識・技術「を有し、リハビリテーションチームの一員として活躍したいと考え、そのための教育に前向きに取り組む意欲のある次のような人を受け入れる。 （知識・技能） ・リハビリテーションを学ぶために必要な基礎学力を持つ人。 ・様々な考え方を持つ他社と人間関係を形成できるコミュニケーション能力がある人。 （思考・判断・表現） ・グローバルな視点を持ち、多様な生き方や考え方を理解できる人。 ・科学的思考力と論理的思考力の基礎を身につけている人。 ・自分の考えをわかりやすく説明できる人。 （関心・意欲・態度） ・リハビリテーションに強い興味を持ち、積極的に学び続けようとする人。 ・柔軟かつ誠実で周囲に配慮した行動ができる人。 ・医療や介護現場における最先端のリハビリテーションに関わりたい人 ・人間の構造・機構のメカニズムや、生活とその背景について、様々な疑問を持ち想像を持ちめぐるすることができるひと。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： 内部質保証に関する方針等 - 北海道文教大学
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
人間科学部	—	22人	14人	4人	1人	6人	47人
国際学部	—	9人	1人	1人	0人	0人	11人
医療保健科学部		21人	8人	10人	6人	2人	47人
大学院		1人	0人	0人	0人	0人	1人
留学生別科（兼務者）		12人	1人	2人	0人	0人	15人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			102人				102人

各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法： 教員一覧 - 北海道文教大学
c. F D (ファカルティ・ディベロップメント) の状況 (任意記載事項)	

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに
進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人間科学部 (看護学科)	募集停止	募集停止	%	80 人	3	0.03%	－人	0 人
人間科学部 (健康栄養学科 こども発達学 科 地域未来学科)	250 人	149 人	59.6%	1000 人	695 人	69.5%	－人	3 人
国際学部	100 人	46 人	46.0%	400 人	252 人	63.0%	－人	2 人
医療保健科学部	200 人	191 人	95.5%	800 人	826 人	103.3%	－人	－人
合計	550 人	386 人	70.1%	2200 人	1773 人	80.6%	－人	－人
(備考) 人間科学部看護学科在籍者 3 名は留年による卒業延期								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数					
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他	
国際学部	46 人 (100%)	1 人 (2.2%)	39 人 (84.8%)	6 人 (13.0%)	
人間科学部	393 人 (100%)	7 人 (1.8%)	360 人 (91.6%)	26 人 (6.6%)	
合計	439 人 (100%)	8 人 (1.8%)	399 人 (90.9%)	32 人 (7.3%)	
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)					
(備考) 3 月卒業生 437 名 9 月卒業生 2 名					
c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 開講前年度の12～1月までに来年度の授業を計画し、3月中旬を期限としてシラバスの作成、ポータルシステムへの登録へと進めている。教員には「シラバスの作成に関する研修会について」のFD研修会を開催し、資料「シラバス作成要領」に基づき、①授業の位置づけ、②授業の概要、③到着目標、④授業の方法、⑤ICT活用、⑥実務経験のある教員の教育内容、⑦課題に対するフィードバックの方法、⑧授業計画(学習内容、準備事後学習)⑨成績評価の方法、⑩教科書、⑪参考文献などを示している。シラバス作成後は、シラバスチェック専門部会規程により選出されたシラバスチェック委員により、全科目のシラバスが「シラバスチェック要領」に基づいて内容確認が行われ、4月1日からWEB公開している。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 各授業科目について、事前にシラバスに記載された「評価の方法」に基づき評価を行い、単位を与えると共に、入学前に教育機関で得た単位について学内の委員会で審議を行い、適当と判断されたものについて単位を認定している。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人間科学部	健康栄養学科	124 単位	有 無	44 単位
	看護学科	124 単位	有 無	44 単位
	こども発達学科	124 単位	有 無	44 単位
	地域未来学科	124 単位	有 無	44 単位
国際学部	国際教養学科	124 単位	有 無	44 単位
	国際コミュニケーション学科	124 単位	有 無	44 単位
医療保健科学部	看護学科	124 単位	有 無	44 単位
	リハビリテーション学科 理学療法学専攻	124 単位	有 無	44 単位
	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	124 単位	有 無	44 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

施設 -EDUCATIONAL INSTITUTION- - 北海道文教大学
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
人間科学部	健康栄養学科	810000 円	200000 円	300000 円	
	看護学科	1000000 円	300000 円	500000 円	令和3年4月より募集停止
	こども発達学科	800000 円	200000 円	250000 円	
	地域未来学科	800000 円	200000 円	250000 円	
国際学部	国際教養学科	810000 円	200000 円	150000 円	1 年次
		810000 円	円	350000 円	2 年次以降
	国際コミュニケーション学科	810000 円	200000 円	150000 円	1 年次
		810000 円	円	350000 円	2 年次以降
医療保健 科学部	看護学科	1000000 円	3000000 円	500000 円	
	リハビリテーション学科 理学療法専攻	800000 円	3000000 円	500000 円	
	リハビリテーション学科 作業療法専攻	800000 円	3000000 円	500000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 学生と教員の人間的な触れ合いを深め、学生生活全般、修学及び進路等についての個別指導を入学時から行い、大学教育の効果を高めるために指導教員制度を設けている。この制度は、教員が学生に対し4年間の修学及び学生生活全般について日常的に相談に応じ、助言を与える学生指導上のシステムで、学生各自の指導教員は、入学時から各学科の専任教員が担うこととなり、指導可能な適正学生数の範囲内において決められる。指導教員は「学業上の助言者」として日常的に学生と面談し、学生の修学、奨学援助・クラブ活動及び就職・進路等の学生生活等に関する諸問題についての指導・助言を行う。積極的に学生と教員のコミュニケーションを図るため、あらかじめ設定する時間帯に専任の教員が研究室で待機し、質問や相談を受けやすくするオフィスアワー制度を設けている。 日本学生支援機構給付型奨学金採用候補者である入学者に対して、指定された期日までに日本学生支援機構発行の通知書の写しを提出した場合は、入学金のみの納付とし、前期分授業料等納付金については入学後の案内としている
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 就職活動全般を組織的にサポートしていく「就職等支援委員会」を設けている。学外においては道内外の企業への周知活動と求人開拓を進め、学内においては学生たちが広い視野から将来の方向性を定め、意識を高めていけるよう情報提供と個別指導・相談を行う。年々早まる就職活動にそなえ、より早期からの指導体制で、学生をバックアップする。就職活動準備講座や就職支援セミナーを計画的にスタートし、少人数の学部構成ならではの特長を生かし、一人ひとりの個性や資質、希望に沿うようきめ細かに個人面談を行い、段階的に導いていく。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

保健管理センターには保健師、看護師が常勤し、学内において気分が悪くなった場合は適切な処置、対応をする。学生生活を送るうえで、様々な問題に悩んだときはカウンセリング室でカウンセラーが様々な問題や悩み事について相談に応じ、適切な助言・指導を行う。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : <https://www.do-bunkyo-dai.ac.jp/professor>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。